

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。



関東大震災 100年「賀川豊彦とボランティア」関連企画

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

映画「医師 中村哲の仕事・働くということ」上映 &
たすけあい、ボランティア、働くを考える集い

2024年2月3日(土)13:30~16:30 連合会館

小島よしおさん(タレント)ビデオ登場

どなたもお気軽にご参加ください **参加無料**



医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

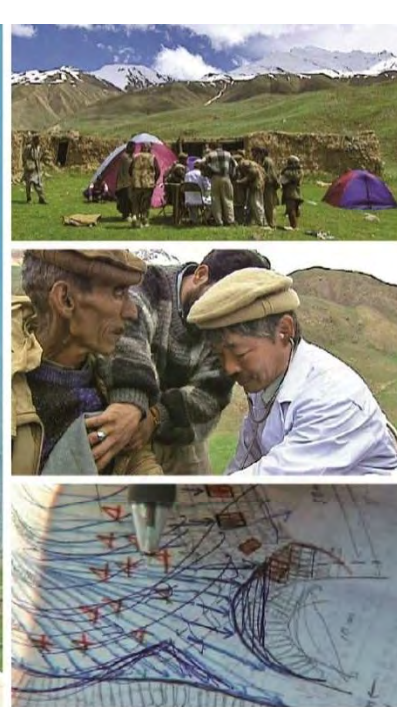
写真・映像提供◎ベシヤワール会/PMS
企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団
一般社団法人日本社会連帯機構
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分





医師中村哲の
仕事・働く
ということ

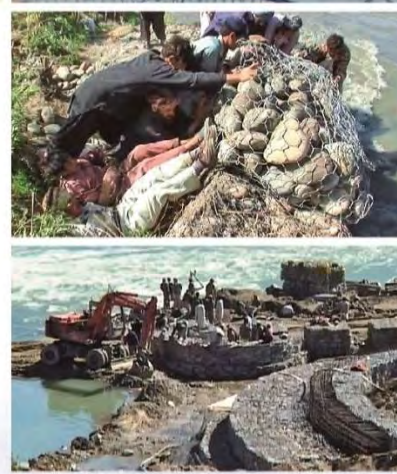
アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない「荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。中村医師は言う「これは人間の仕事である」



100年前、賀川豊彦は関東大震災で「たすけあい」を広げ復興に尽くした（当時の賀川の歩みは実行委員会サイトのアニメをご覧ください）。中村哲医師も苦しむ人々を救うため現地の人々とともに働いた。映画をつうじ「たすけあい」について考え交流します。



- **日時・会場：2月3日（土）13:30～16:30 連合会館大会議室（300名）参加無料**
 - 連合会館：東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
 - 地下鉄：千代田線「新御茶ノ水駅」B3出口すぐ。丸ノ内線「淡路町駅」B3出口。都営新宿線「小川町駅」B3出口。
※丸ノ内線／新宿線を利用の方は地下道を通り千代田線方面へ。B3a・B3b 出口は違う方向へ出るので注意。
JR：中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口（徒歩 5 分）
- **内容：①映画上映 ②アフタートーク(NGO ペシャワール会、協同組合の若手から) ③交流セッション(感想や思いを気軽に語り合い)**
- **事前申込：1月29日(月)までに以下の申込フォーム・QRコードからお申込み下さい。**
ご不明な点はお電話にてお願いします。定員になり次第締め切らせていただきます。
申込フォーム：<https://ws.formzu.net/fgen/S98402299/>
お問合せ電話：03-3302-2855（火曜～土曜 10～17 時／賀川豊彦記念松沢資料館）
- **主催：関東大震災 100 年事業「賀川豊彦とボランティア」実行委員会 <https://sinsai100.online/>**
（共同実行委員長：鶴殿博喜・明治学院学院長、土屋敏夫・日本生協連会長、芳野友子・連合会長）
協力：カガワ協同組合スクーリング(主催団体：JA 全中、こくみん共済 coop、日本生協連)

